

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	通所支援事業所ボンボン（放課後等ディサービス）		
○保護者評価実施期間	令和年 1月 13日	～	令和8年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 6日	～	令和8年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員同士の連携や協力体制の構築 他部門との情報共有	職種の枠にとらわれず、多職種が連携しながら支援を行うことを常に心掛けています。 また、訪問系サービスとも積極的に情報共有を行い、ご家庭での様子、訪問時の状況、来所時の様子について相互に共有することで、生活全体を見通した一貫性のある支援が提供できるよう努めています。	共有した情報を各々の職員が把握できるようにする。 疑問などはそのままにせず分かる職員へ確認するようにする。
2	専門性を生かした支援方法の検討	職員それぞれが有する専門的な知識や経験について、研修会や日常的なケアの場を通して共有を図り、それらを基に、利用児一人ひとりの特性や発達状況を踏まえた評価および支援プログラムの立案を行っています。 また、保護者の方との写真や動画の共有、家庭訪問などを通じて、ご家庭での様子や日々の成長過程について丁寧に情報共有を行い、子どもたちの成長を共に見守りながら、より適切で継続的な支援につなげられるよう努めています。	培った知識などを日々の療育に生かせるように ミーティングや写真や動画などを利用し利用児の状況を理解し、保護者への共有を図り、子どもたちの成長を感じられるようにする。
3	季節に応じた活動を行う。	季節に応じた水遊びや屋外活動、おでかけなどの活動を取り入れ、さまざまな体験の機会を提供しています。 通所内での活動にとどまらず、地域や屋外での経験を通して、日常生活では得にくい学びや気づきを重ねることができるよう、一人ひとりの発達段階や特性に配慮しながら支援を行っています。	季節の行事を大切に。 ご家庭では経験できない通所だからできることを探し楽しい経験を積んでいけるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流	他事業所との交流につきましては、年に一度、合同運動会を実施しております。しかしながら、放課後という限られた利用時間帯の中では、日常的に積極的な交流の時間を十分に確保することが難しい状況が多く見受けられます。	時期を調整しながら交流の機会を検討していく。
2	車いすの保管場所、活動スペースなどやや手狭になってきている。	利用児の成長に伴い、使用するベッドの台数が増加しており、利用人数や支援内容によっては、必要となるケア人員の確保が十分でないと感じる場面や、プレイルームのスペースがやや手狭に感じられる場合があります。	利用人数の調整や環境の整理整頓など 求人
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		障害児通所支援事業所ボンボン（放課後等デイ）					公表日	年	月	日
		チェック項目	はい	わからない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	70		30		利用定員を職員数は法令の従い配置されています。利用児さん成長に伴い利用人数に応じてやや手狭に感じる場合やケアに必要な人員に不足を感じる場合があります。環境調整や必要に応じて人数の調整でできるだけ活動スペースを確保し、安全にケアと療育が実施できるよう工夫しています。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	70		30					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100							
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100							
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100							
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	90	10						
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100							
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100							
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	50	40	10		現在第三者による外部評価は実施していません。必要に応じて検討します。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100							
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100							
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100							
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100							
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100							
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	66.7	33.3		標準化したツールは使用していませんが、行動観察の記録やリハビリテーションの記録、アセスメントなどは共有し情報共有を行っています。	アセスメントフォームの検討			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100							
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100							
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100							
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100							

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100					
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	70	30			支援終了直後には難しい場合も多い為、後日スタッフが揃う時間帯で振り返りを実施しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	90	10				
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100					
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	90	10			1. 自立支援と日常生活の充実のための活動 2. 創作活動 3. 地域交流の機会の提供 4. 余暇の提供	
関係機関や保護者との連携	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	90	10				
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100					
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100					
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100					
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	60	40			事業所内でのケース検討、家庭訪問、他事業所とのケア会議を通じて情報交換をしています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	80	20				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	50	40	10		自立協議会などを通して必要時、児童発達支援センターとの連携は持っています。	必要に応じて助言を受ける機会を作る
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	50	20	30			感染症流行等の問題で計画を立てても実行できないことが続いています。今後も時期や状況を見ながら交流の機会を検討していきます
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	80	20			自立支援協議会「子ども部会」への参加は継続しています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100					
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	90	10				研修会、交流会の機会を検討していきます。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100					
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100					
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100					
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100					
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	88.9	11.1				
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	90	10				

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100					
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100					
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	90	10		年に1~2回程度の家庭訪問の実施		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100				今後、交流の機会を検討していく	
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100				
		47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100				
		48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100				
		49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	90	10		アレルギーの有無は書面にて保護者へ確認 除去が必要な場合は医師の指示と保護者に確認しながら対応しています。	
		50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	90	10			
		51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100			家庭訪問の実施 安全計画はホームページに掲載しています。	掲載の周知を図る
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100					
53		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100					
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100						